

たと聞きます。東日本大震災は被災区域も広いので(原発被害地区を除いて)私見ですが、その一・五倍の時間が掛



石巻・被災家屋の撤去

るのではと考えています。そんな状況の中で、遅しく立ち上がる人や企業も出現。コンセプトは「地域の人のために役に立ちたい」でしょうか。

仙台市街地はお陰さまでこれが震災のあつた街かと思える位に復旧も早く復興需要もあつて活気付いていますし、内陸部郊外では自動車や半導体の工場も稼働を本格化し復興を後押ししています。仙台支部では大先輩が、お一人犠牲になつた(直接ではなく震災関連死の模様)とはいえ、他の会員には住居など大きなダメージがなかったのは幸いでした。ただ私も含め、自分が被災者か否か判断に迷うところがあります。震災復興のために自分は何が出来なのか。行動が伴わず、モンモンとしている毎日です。関東支部の皆さん、東北観光に来て元気づけて下さい。

(仙台市在住)



あの日  
あのころ  
いまじぶん

### ふるさとを同じくして

川上 孝(2回)



選挙の好きな私は、昨年一月から三ヶ月選対事務所に通った。市議三期の四〇才青年を

四月一六日に村高同期の「傘寿を祝う会」を、三年前の「喜寿の会」に続いて霞ヶ関の別荘桂で開くことにし、出欠の返事が集まっていた。村上や新潟からも多くの出席が予定され楽しみにしていた。その矢先の三月一日、仮設の選対事務所が大きく揺れ東日本大震災が起きた。急遽傘寿の会を中止し改めて一月一九日に健康なお互いを祝った。残念なことこの半年の間に出席予定の二人が急逝し、体調不良の五人が欠席、時間経過の無常を恨んだ。

故郷村上での同期会が十年以上も開いてもらえないので、私は東京で集いを開き村上や新潟から参集してもらっている。傘寿の会の席上、八〇才から一年置きに稗寿(はいじゅ)、粟寿(ぞくじゅ)、麦寿(ばくじゅ)、米寿、卒寿

を祝うことを決めて散会した。ふるさとを同じくする村高同窓会にしても、私自身だんだん出席が減り、お互いの交流も少なくなつたと感じている。

岩船出身の私は、引き継いだふるさと会「磐樟(いわくす)会」で郷土の人との交流の場を提供しているが、若い人たちには中々浸透出来ない。岩船中学同期の集いが活発であるからいう。形式張るのを止め昨年から楽しい食事会形式に改めた。

ふるさとの人との交流に私がやっているもう一つが岩船っ子ゴルフ会である。私は旧制村上中学で戦中戦後青春を謳歌したが、新制以降の人は西神納との組合立岩船中学で多感な数年を学び遊んでいる。その人たちの心情を理解しないふるさと岩船を語れないことが分かって来て、岩船中学卒業の西神納の人にも入つてもらっている。春秋二回中山CCで行っているがカントリークラブだからカートは無い。岩船から村上の最高級A5のステーキ肉をはじめ、魚などが沢山送られて来る。



岩船港

町内対抗戦には思わぬ賞品に恵まれ楽しい一日となっている。そして各年代を通して岩船発展のための情報共有を推進する。

太平洋側日本海側の最短距離の所は仙台と岩船とを結ぶ直線であり、国家緊急時の移動物流に弾丸道路が必要である。

既に岩船港は国直轄で整備が進められ大型帆船日本丸を始め自衛艦の寄港が行われており、国家事業として更なる進捗が期待される。

郷関を出てここ首都圏で安穩に過せるのも、育ててくれたふるさとあつてのことを岩船っ子は忘れない。

ゴルフ会参加希望の方は是非川上までご連絡ください。(船橋市在住)

### ひらめきを大切に

齋藤 實(7回)

誰でも思い当たる節があると思うが、眠りに陥る時になにか素晴らしい「ひらめき」や「思いつき」に遭遇し、翌朝思い出そうとしても具体的になかなか思い出せない事がある。

また、数学の問題等を考えつづけても問題を解く事が出来ない事が良くある。そのうちに疲れて問題を投げ出ししてしまう。しばらくして再び問題に向かうと「ひらめき」で問題が解ける事がある。ギリシャの数学者・物理学者アルキメデスの「ユーレカ(わかった)」は有名な話である。金の純度を測定する方法を発見した時に発した言葉とされている。